

# 「こおりやまの米」通信

編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (Tel. 024-921-0503)

NOSAI福島中央支所 (Tel. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 Tel. 024-924-3761)



GOOD RICE DAY  
毎月8日は  
こおりやま「お米の日」



## Vol.1 播種準備編(種子の準備～播種)



\* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

### 1 播種の準備

#### 1 作業場等の清掃

いもち病やばか苗病の菌は、わらや籾殻等に潜んでいます。感染を防止するため、播種作業を行う前に作業場や育苗ハウス内を清掃してください。

また、前年の育苗期間中に苗立枯病(カビ)が発生した場合は、育苗箱や育苗床のビニールの消毒、または更新等の対策をしてください。

#### 2 塩水選(比重選)

塩水選を行うことで、充実した良質の種子を選ぶことができます。そのため、塩水選を必ず行ってください。

塩水選後は、発芽障害を防ぐため軽く水洗いし、塩分を取り除いてから浸種してください。

塩水の作り方[水10ℓ当たり] ※



種類	比重	食塩(kg)	硫酸(kg)
うるち	1.13	2.1	2.7
もち	1.10	1.6	2.0

※食塩または硫酸のどちらかを使用します。比重は水温や吸湿程度によって変動するため、比重計で測るのが原則です。

### 2 種子消毒

未消毒の種子を購入、または自家採種した場合は、塩水選後に化学農薬、生物農薬や温湯での処理を実施してください(毎年の種子更新が基本です)。

#### 1 化学農薬

種子消毒剤(モミガードC水和剤、テクリードCフロアブルなど、もみ枯細菌病・苗立枯病に登録のある剤)を規定量用いた薬液の中で種籾袋をよく揺すり、内部まで薬剤を均一に付着させます。銅を含む薬剤は沈殿が発生するため、浸漬中に薬液を1～2回攪拌してください。

#### 2 温湯消毒

取扱い説明書に従い湯温と処理時間を設定し、1回当たりの処理量を守るようにしてください。

### 3 浸種 ～十分な「吸水」と「酸素」がポイント～

1 浸種水温は12～15℃を目安とします。浸種期間中の気温が高く経過すると予想されているので、涼しい浸種場所を選んだり、遮光を実施する等の対応を検討してください。なお、10℃以下での浸種は、発芽不揃いや種子消毒剤の効果が低下する原因となります。

浸種期間は積算水温(平均水温×日数)で100℃が目安です。令和6、7年産種子は高温により休眠が平年より深いと想定されるので、ひとめぼれ等の休眠の深い品種は120℃程度を目標にしてください。

2 種籾袋には、余裕をもって八分目以下に種子を詰めます(ホーミーネットに4kgが目安)。ぎっしり詰めると中心部が酸素不足となり、発芽が不揃いとなります。

3 種子消毒剤の効果は、浸種時に種籾の微細な隙間まで薬液に浸漬されることにより発揮されたため、浸種開始から2～3日間は水を交換しないようにします。

その後は、酸素供給のため1～2日の間隔で水を交換してください。

河川やため池での消毒種子の浸種は、消毒の効果がなくなるだけでなく、発芽の不揃いや環境汚染にもつながりますので、絶対にやめてください。



### 【育苗ハウスでの農薬の使用について】

水稻育苗後のハウスで野菜等を栽培する場合、育苗時に使用した薬剤による残留汚染の危険性があるため、育苗開始前にハウス内に不透水性無孔シートを敷き詰め、育苗に使用した薬剤が土壌に流出しないよう対策を取り、使用時はラベルを確認し使用法を守ってください。

## 4 播種 ～適正な播種量で健苗を確保～

### 1 播種量と育苗日数の目安(表1)

適正な播種量とすることで健苗が得られ、活着と初期生育が良くなります。老化苗とならないよう、田植え日から逆算して播種日と播種量を決定してください。

### 2 播種

播種前に空の育苗箱を使って播種量や箱施用剤の落下量を調整してください。播きムラがあると移植時の欠株の原因となるので注意してください。

### 3 病害防除(表2)

販売されている培土は焼土殺菌されていますが、播種後の立枯病菌及び細菌の侵入に対しては薬剤を使用し予防する必要があります。予防のために、播種当日に防除を実施してください。

### 4 温度管理

もみ枯細菌病等の発生を予防するために、育苗器の設定温度は28℃にしてください。

緑化から第1葉展開までは日中25℃、夜間10～15℃、以降は日中20℃、夜間10～15℃を目標に管理しましょう。適切な温度管理のため、温度計を苗と同じ高さの位置に設置してください。



表1 播種量と育苗日数

苗種	播種量 (乾籾重/箱)	育苗日数	葉齢
稚苗	200g	20～25日	2.0～2.9
中苗	100g	30～35日	3.0～3.9

表2 育苗期の主要な病害と対応する農薬例

病名 (病原菌)	症状	発生条件	カスミン 粒剤	ナエファイン フロアブル	ダコニール 1000	ダコレート 水和剤	タチガレエ ースM液剤
細菌	もみ枯細菌病	坪状に枯れあがり、心葉が容易に抜ける	高温多湿 高pH(6.0以上)	○			
細菌	苗立枯細菌病	坪状に枯れあがり、基部が白化する	高温 苗の生育不順	○			
苗立枯病	(リゾープス)	白いカビ	高温多湿 多窒素・厚播き		○	○	○
苗立枯病	(フザリウム)	白からピンクのカビ	低温過湿 高pH(5.5以上)		○		○
苗立枯病	(ピシウム)	ドーナツ状に枯れる カビは見えない	低温過湿 高pH(5.5以上)		○		○
苗立枯病	(トリコデルマ)	白から緑のカビ	高温多湿 低pH(4.0以下)			○	

## 5 育苗ハウスでの平置出芽

出芽時の目標温度28℃をできる限り維持するため、こまめなハウスの開閉や、保温資材、遮光資材の活用に務めてください。

水やりは被覆前にたっぷり、床置2～3日後に中間灌水してください。出芽長は10mm程度、出芽が揃った頃を目安に被覆資材を剥がしてください。

アルミ蒸着シートを使用している場合でも、ハウス内温度が上昇した場合は、ハウスの開閉を行ってください。

再使用のアルミ蒸着シートのはく離は、部分的な高温障害の発生の要因になるので、はく離がないことを確認した後で使用してください。アルミ蒸着シートを再使用する場合は、はく離の原因にならないよう水滴や泥をよく落とし、乾かしてから保管してください。

### 【春の農作業安全運動重点推進期間です！】

春は水稻の作業で慌ただしく、事故の発生が多い時期です。余裕のある作業計画を立てるとともに、作業中も定期的に休憩をとるように心がけてください。

また、トラクターや田植え機での農作業後、公道に出る際には、**機械についた泥を落として走行してください。**道路に落ちた泥のかたまりは、通行の妨げになり、滑りやすく交通事故の原因にもなり、大変危険です。

### 【鶏糞の肥料的効果について】

水田に施用した鶏糞は、含まれる窒素成分のおよそ6割が水稻1作で吸収されます。鶏糞を施用する場合、鶏糞の窒素成分量から吸収量を算出し、基肥窒素量を削減してください。

例: 窒素成分4%の発酵鶏糞ペレット80kg施用

$$0.04 \times 80 \times 0.6 = 1.92\text{kgの基肥窒素に相当}$$

